

パブリックコメント実施概要・結果

「西東京市第2次産業振興マスタープラン（素案）」について、広く市民の皆様に周知するとともに、ご意見やご提案を本計画に反映させることを目的に、パブリックコメント（市民意見提出手続制度）を実施しました。

【実施概要】

実施根拠	西東京市市民参加条例（平成14年西東京市条例23号）第13条
実施期間	令和5（2023）年11月24日（金）から12月25日（月）まで
周知方法	広報西東京（11月15日号）・西東京市ホームページ
閲覧場所	情報公開コーナー（田無庁舎5階）・西東京市ホームページ
対象者	在住・在勤・在学者、市内に事務所または事業所がある法人・団体
提出方法	産業振興課へ直接持参・郵送・FAX・メール 西東京市ホームページの意見提出フォームより
パネル展示	12月16日（土）午後1時から5時まで／コール田無

【実施結果】

意見提出人数	8名
意見件数	10件

意見 番号	意見要約	回答
1	<p>【活動の場】 学校ではできないことをやってあげたいという思いで、事業を行っており、教育として子どもたちが気軽に活動できる場所、親子で参加できるイベントが増えてほしい。 公民館の視聴覚室等も個人利用ができると使いやすくなる。</p>	<p>子どもたちをはじめ、多くの人々が活動できる場が増えるよう、事業を推進してまいります。 公民館の利用等については、関係部署に情報提供いたします。</p>
2	<p>【学生・大学との連携】 プレミアム応援カードなどの学生向けのサービスも提供してくれているが、実際にそのサービスを利用している学生は少ない。大学と連携して、大学内でも告知をした方が利用する学生が増え、好きな飲食店が増えることなどにもつながる。</p>	<p>学生向けのサービスの提供については、市内にある大学及び関係機関にチラシの配布を依頼する等の取組みを行いました。引き続き、幅広い世代に向けた支援を行うために、学生や大学等との連携を図ってまいります。</p>
3	<p>【団体の活動拠点】 音楽活動の練習場所を増設、利用時間の延長を希望。 活動のPRができるよう、施設や学校など、発表する場所を増やしてほしい。</p>	<p>施設の利用時間の延長や活動をPRする場について、関係部署に情報提供いたします。</p>
4	<p>【田無駅南口】 田無駅南口の店が減ってしまった。 田無庁舎を保谷庁舎跡に移転し、田無庁舎の跡地に大規模な商業施設を誘致して、より人が集まる街にしてほしい。</p>	<p>田無駅南口について、関係部署と連携を図りつつ、産業の振興に取り組んでまいります。</p>
5	<p>【農業体験の機会】 ここ5、6年で農地から宅地へ変わっている状況に、自然（緑）が減っていく悲しさを感じている。 西東京市は都内でも、古き良き雰囲気が残る地域のため、“農”を子供に伝えるには良い地域であると思うので、土を触る機会を増やしてほしい。</p>	<p>西東京市の農業の魅力を感じていただくために、今後も農業及び農地に触れる機会の創出を検討いたします。</p>
6	<p>【ハンサム・ママプロジェクト事業】 女性の起業支援サポート事業のハンサム・ママは「しごと」分野での発展はもちろん、他市にないサポートなので、「西東京市ブランド」としても今後も事業の継続を望む。 女性が生き活きと働き、輝いている街は産業の活性化、子育ての環境としても整えていくべきだと思う。</p>	<p>女性の働き方サポート推進におけるハンサム・ママプロジェクト事業については、子育て世代を中心とした女性が理想の働き方を実現できるよう、充実を図るとともに、「西東京市ブランド」としても、引き続き事業を推進してまいります。</p>

7	<p>【商店街の空き店舗活用】 商店街とハンサム・ママ事業等が連携することで、地域の活性化につながるのではないかと考える。商店街の空き店舗を利用するなど、貸し手と借り手の仲介を市がやってくれると良いと考える。助成金などのサポートもあると更にありがたい。</p>	<p>商店街の空き店舗の活用に向けては、チャレンジショップ事業等を行ってまいりましたが、引き続き、商工会、商店会等と連携した支援策を図ってまいります。</p>
8	<p>【インバウンド事業者へのバックアップ】 西東京市が今後取り組む課題の中に、インバウンド事業者へのバックアップを加えてほしい。 インバウンド関連事業において、モノ重視からコト重視を求める傾向が強まるといわれる中で、都心から30分で往来できる西東京市が新たなインバウンド事業の土壌となる必然性は十分にある。</p>	<p>地域資源の有効利用を検討し、魅力あふれるまちづくりに向けて取り組んでまいります。</p>
9	<p>【農業者と商店街の連携】 P45 施策1「農産物の安定した販路の確保」に商店会も関わりたいと考える。商店街で市内産農産物が購入できるなど、生産者と消費者の交流の場が商店街にできると良い。 商店街の飲食店でも積極的に市内産農産物を使用し、また、家庭で作れるレシピの提案などしてもらえると販促につながる。農産物の旬など、生産者から消費者に情報発信ができ、市民が「農」を身近に感じられる商店街を作してほしい。</p>	<p>農産物の安定した販路の確保について、商店街等での販売や流通の仕組みづくりの検討を推進してまいります。</p>
10	<p>【世代交代】 次期計画の終了である2033年までに築いたものを将来受け渡すことを考えると、今から子供たちを巻き込んで世代交代がスムーズに行われるように取り組んだ方が良い。 P12「ここにつながる」では、「次世代へつなげる」という言葉が一番のポイントであり、「ここでそだつ」では、現在の子供もターゲットにしてほしい。子供たちの巻き込みを計画に落とし込んでもらえると安心する。</p>	<p>子ども世代を対象とした取組みについては、西東京市第3次総合計画や関連する分野の計画と連携を図りつつ、取り組んでまいりたいと考えております。</p>